

さる10月8日から10日までの3日間、世界遺産センターでは、「古丁銀」という銀貨9点の特別展示を行いました。

古丁銀とは、戦国時代から江戸時代の初めごろに造られた丁銀の一種です。

石見銀山でも沢山の数が造られたと考えられますが、実は現代まで元々の形で伝わっているものはほとんどありません。

それというのも、この銀貨は枚数で使うのではなく、重さに応じてタガネなどで切っていたからです。

細かく切り分けられ、最後には鑄直されてしまうため、完形品が残ることは滅多にないのです。

そのため、今回のように沢山の完形品が9点も一堂に集まることは、非常に珍しいことでした。

今回展示した古丁銀は、元々は個人の方がコレクションしていたものを、島根県が購入したものです。

石見銀が使われたと考えられるものもあり、世界遺産石見銀山の価値をより明らかにする物証として、非常に貴重な歴史資料といえるものです。



沢山の人がご覧いただきました

この丁銀は出雲市にある島根県立古代出雲歴史博物館で、来年開催予定の石見銀山の世界遺産登録5周年記念事業や、戦国大名尼子氏に関連した企画展などでの展示が予定されています。(平成24年実施予定)

石見にゆかりある様々な丁銀が集まるよい機会です。大田にお帰りの際には、ぜひあわせてご覧いただければと思います。

【問】 石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183 ホームページ <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

ちやうど「語り」語録 番外編
「とろへい」(水上町)

昔は1月14日になると小学校の高学年から中学生ぐらいまでの子どもらは「とろへい」をしようと。

いつもつるんどの仲間で「とろへい」をしようやあ「ゆうことになりやあ、大人にこさえてもろうた藁馬に端切れで縫った袋と、5〜6メートルぐらいの縄を結わえて夕方歩くだ。

近所の家の玄関を開けて、藁馬を投げ込んで「とろへい」とろへい「ちゆうて声をかけて隠れとると、その家の大人が袋の中にいろいろ入れてごすだ。それから縄を引つ張るだ、その家のもんも「どこのしごんぼが来たか、一目見ちゃるう」ちゆうて顔を見ようとする。それで馬を取らせまあと縄をさかしに引つ張つたり、隠れとる物陰に水をひっかけたりしよった。水をかけられりやあ元気になるとか、風邪ひかんとか言うとか。

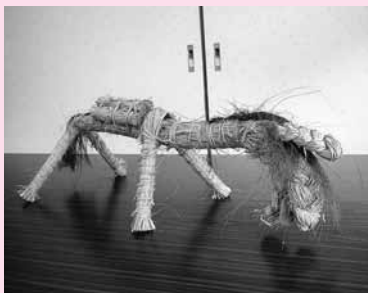
顔を見られてもなんちゆうことないだ、それがお遊びよ。水も本気でかけやせんし、次の日には恨みっこなしだ。ほいでも意地の悪い家には井戸にスクモ(もみ殻)を投げ込んだり、いたずらをして帰っちゃうだ。仕舞いに近所の地藏さんに藁馬を供えて帰るだ、あんまし対応の悪い家がありやあ、藁馬を牛小屋に吊るしちゃうのよ。

そうすりや牛に悪いことが起こるつちゆうて言われとって、それを大人も恐れとった。滅多にそがなことはせだつたがな。終わってからは神社の境内で自身を山分けして、餅を焼いて食べたりしよった。

14日にやあ15日の御正忌さんのために餅をつくだけえ、つきたての餅を入れてごすだ、他にもミカンやら飴やら小遣いを入れてごしよった。

あの頃、小遣いがもらえるのはシツカク踊に出ると「とろへい」の時ぐらいだつたけえ嬉しかつたよ。シツカク踊も選ばれたもんしか出られんだったけえな。「とろへい」も小さい子はうらやましがつたよ。子どもが思いつきでやるもんだけえ、やらんグループもあつたけど、しごんぼはだいたいしよった。大人も心待ちにしよったよ。「とろへい」が来そつだと思やあ用意しよった。藁馬作つてごした大人は、たいてい自分らもやつた口だわ。それとなくけしかけたりしよったと思つた。

40〜50年前ぐらいまではしよつたが、だんだんとやらんようになつたな。



所蔵：高山小学校

「とろへい」は子どもが藁馬を持って各家を回る小正月ごろの行事で、広く行われていたようです。水上町では40年ぐら以前まで行われていました。いつの間にか廃れてしまったようです。近年、隣町の美郷町や飯南町で復活し二ニュースになっていますが、名前ややり方などは少し異なっているようです。

(水上町の吉川さん、朝野さん、渡辺さん、国本さんに伺ったお話を元に構成しました)